

「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和3年6月18日（金） NO11 文責 木下 文秋

男女共同参画社会

6月16日の宮崎日日新聞に「男女共同参画計画 県6割未達成」と書いてありました。生徒の皆さんはあまり耳にしたことがない言葉だと思います。「男女共同参画社会」とは、男女が互いに人権を尊重し「女性」や「男性」というイメージに当てはめてしまうことなく、一人一人がもっている個性や能力を発揮できる豊かな社会をいいます。日本では憲法で男女平等がうたわれていますが、政治の世界における女性の比率の低さや、男女間の賃金格差、育児や家事へ参画する男性割合の低さなど多くの問題があります。東京五輪組織委員会の前会長が発した女性蔑視発言は大きな問題となり辞任に追い込まれました。生徒の皆さんは、覚えていますか？しかし、これらの問題を簡単に解決することはとても難しいように思えます。「男のくせに。女のくせに。」という言葉は使ってはいけない言葉だとわかりますが「男らしいとか女らしい」という表現はどうなのでしょう。最近は大型トラックやタクシー、バスを運転する女性を見かけます。これまで男性ありきの職場で、女性が活躍するシーンです。しかし、育児休暇を男性が取得する割合を簡単に増やすことは難しそうです。これは、社会そのものの仕組みと相関関係があるように思います。また、学校で仕事をしていて、女性の先生が関わる方がうまく解決につながる事例もこれまで多々ありました。母性的な関わりや言動が生徒の心に浸みていることを感じます。「男女共同参画社会」というと、とても難しいのですが、わかりやすくいえば「男女がそれぞれ活躍できる場面で、平等にその能力を発揮することを妨げない」ということではないかと思います。料理番組を見ていると調理をするのは思いのほか、男性が多いことに気づきます。そこには、料理は女性がするものという概念はありません。ただし、重いものを持ちたり、高い所で作業をしたりするのは、どうしても男性が有利です。「男性は仕事やリーダー的役割を担い、女性は家事やケア役割を担う」といった固定的な意識にとらわれず、男女が経済的にも社会的にも対等に活動が行えるような社会の制度や慣行の在り方を見直す必要があると思います。むやみやたらに何でも否定するのではなく、男女が持つ個性や特性を素直に受け入れ、お互いを尊重しながら生活していくことが大事なことでないでしょうか。